



# 埋文だより

第15号

平成10年2月1日発行

## 東シナ海を臨む古代の建物群



市ノ原遺跡 第1地点  
《所在地：日置郡市来町大里島内》

掘立柱建物跡  
(人が立っている横の穴が柱の跡)

市ノ原遺跡(第1地点)は、市来町大里の水田を見下ろす標高50m程のシラス台地上にあります。この遺跡は南九州西回り自動車道建設予定地内にあるため、平成9年4月から台地の西端部分の発掘調査を進めています。

特に、台地南西部の平らな部分を約2,000㎡調査したところ、地表面から約1mの深さに3万点におよぶ土師器や須恵器の破片と共に古代の12棟の掘立柱建物跡が見つかりました。

### 目次

頁

- |                   |     |
|-------------------|-----|
| ・発掘遺跡紹介(13)       |     |
| ・市ノ原遺跡(第1地点)      | 1~2 |
| ・上浅川遺跡            | 3~4 |
| ・上野原遺跡見学者数        | 4   |
| ・兵庫便り             | 5   |
| ~阪神淡路大震災復興調査支援より~ |     |
| ・おもなできごと          | 6   |

鹿児島県立埋蔵文化財センターの見学は、  
日曜日・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時~午後5時まで、  
入館料は無料です。お近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。

## 発掘調査紹介(13)

## 豊富な遺物をもつ古代の掘立柱建物跡

ほったてばしらたてものもあと

## 掘立柱建物跡と多様な出土品

掘立柱建物跡12棟の中で規模の大きなものが2棟(約4×6m, 4×7m)あり、また底がついたものも2棟ありました。建物の向きから2つのグループに分けられますが、同じ時期に何棟の建物が建っていたかについては、現在研究中です。

この建物跡の周辺からは多くの遺物が出土しました。出土品としては土師器がもっとも多く器種も多様で、椀、坏、甕などの他、高坏、台付き皿、底に孔のあいた耳皿(写真)、土器の内側を磨いて黒く燻した内黒土師器や、赤色の顔料を塗った内赤土師器、土器内外面に墨で文字を記した墨書土器、焼塩土器などがあります。

また、紡錘車や土錘などの土製品の他、本県では9例目の出土となる緑釉陶器やそれと同じ時期の中国産青磁(主に越州窯)も数点出土しています。この他、越州窯の合子(蓋の付く小形で筒型の容器)片は南九州では初めての出土例です。



祭祀に使用されたとされる耳皿



「春」という文字が記された土師器椀

## 市ノ原遺跡 第1地点



市ノ原遺跡(第1地点)の位置



建物の配置図

## 特殊な建物跡

この建物群の年代は周辺から出土した遺物の特徴や柱穴に埋まっていた土の状況から9世紀後半から10世紀前半にかけてのものと思われるが、建物群の性格は今のところ不明です。

しかし、この建物群には配置や方向に一定の規則性があること、1号建物跡の4面底のように南九州としてはめずらしい構造の建物が含まれること、加えて出土遺物に緑釉陶器や中国産青磁などの“貴重品”も含まれていることなどから、官衙(役所)や役人の住居、あるいは寺社など特別な建物群である可能性が考えられています。

今後は、建物群の性格を検討しなくてはなりません。南九州では9世紀後半から10世紀前半にかけての遺跡の調査例が少ないため、ここでの調査結果が南九州の古代の歴史を研究する貴重な資料になるものと思います。

## 発掘調査紹介(13)

## 良好な保存状態の種子島弥生人

かみあざこう 上浅川遺跡《所在地：西之表市現和上浅川》  
にしのおして げんな

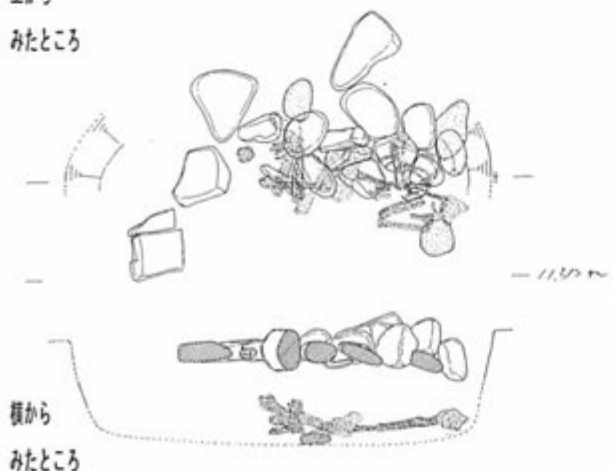
上浅川遺跡は平成9年度、県道西之表～南種子線改良工事中に頭蓋骨の一部が発見されたため、県教育委員会が同年6月に発掘調査を実施しました。本遺跡は種子島の東海岸沿いの、西之表市現和上浅川にあり、標高は約14mで西から東に緩やかに傾斜した砂丘台地（人骨発見地点の東側は保安林）に位置します。

発見時は、砂丘を掘削した崖面（地表下約3mの淡褐色砂層）から人骨の頭部と人骨の上部に人頭大の自然礫10数個がほぼ水平に並べられた状態で表面に表れていました。

遺構は覆石墓とよばれるものです。遺構の覆石部分・土壌の西側半分弱は工事によってすでに失われていましたが、人骨は完全な形で残っていました。



覆石と人骨の出土状況

上から  
みたところ

覆石のある状態での実測図



上浅川遺跡の位置

## 〈出土状況について〉

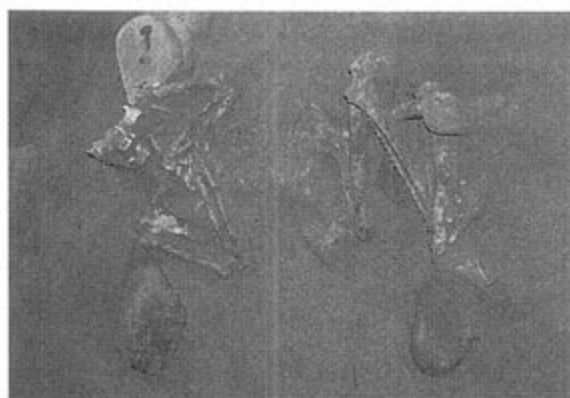
**土壌**—死者を埋葬するために掘られた穴のことで深さは約50cmでした。平面の形は南北軸が長く約213cm、東西軸についてはよくわかりませんが方形または長楕円形の形状であると思われます。

**覆石**—遺体を安置し、土を被せた後、その上に石を並べて置いたものが覆石です。残っていた覆石は約1.7m×1mの範囲の中に置かれていました。覆石のまわりは約30cm前後の石4個が置かれ、内側には丸い約20cmくらいの石がまとめて配置されていました。

**埋葬人骨**—人骨の保存状態は極めて良く、仰向けに膝を曲げた状態で埋葬され、抜歯が施されていました。埋葬された人は、身長が低く、頭の長さも短い30歳代の男性でした。典型的な種子島弥生人といわれる広田遺跡（南種子町）や鳥ノ峰遺跡（中種子町）から発見された人骨ととても良く似ています。

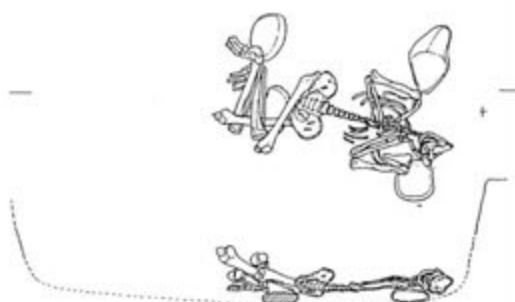
**遺物**—遺物包含層や土壌内からは人骨に伴う副葬品・装飾品等の出土は全くありませんでした。

当遺跡の覆石墓の時期は、墓の中やまわりから遺物が発見されなかったことから、はっきりしません。しかし、同じ種子島の中種子町鳥ノ峰遺跡や西之表市田ノ脇遺跡からも同じような墓が発見され、特に田ノ脇遺跡（当遺跡の北約500mの位置に所在）の人骨の埋葬方法と極めて似ていることから、弥生時代後期（約1,700年前）の墓と考えてよさそうです。なお、調査は覆石墓1基だけでしたが、このような墓は群をなして造られることが多く、発見地点の東側（太平洋の保安林）まで遺跡が広がるものと推定されます。



完全な形の種子島の弥生人骨

上から  
みたところ  
横から  
みたところ



覆石をはずした状態での実測図



### 上野原遺跡現地見学者数

(単位:人)

月	県内	県外	総数
5	2,201	124	2,325
6	34,505	4,430	38,935
7	13,073	3,196	16,269
8	67,574	15,394	82,968
9	4,267	1,729	5,996
10	7,322	1,961	9,283
11	7,898	2,192	10,090
12	3,446	1,461	4,907
1	4,938	2,510	7,448
計	145,224	32,997	178,221

※平成9年5月26日~平成10年1月31日現在



現在のの上野原遺跡の様子

国内最古・最大級の縄文集落跡が発見された国分市上野原遺跡では、検出された住居跡等を保護しながら、隣接地に全く同じ規模・配置で当時の集落を復元公開しています。博物館では出土した遺物の展示をはじめ、関連した企画展や体験コーナーを設けています。また、毎月第2土曜日には「マンスリーイベント」として野外体験を実施していますので、お気軽に御参加下さい。

毎日、職員が案内していますので、四季折々の上野原遺跡へお出かけ下さい。



上野原遺跡展示館



## 兵庫便り ～阪神淡路大震災復興調査支援より～

私は現在、鹿児島県から派遣され、阪神淡路大震災復興調査支援職員として、兵庫県埋蔵文化財調査事務所に勤務しています。鹿児島県では震災後の平成7年10月から職員を派遣しており、私で3人目になります。（平成7年度一立神次郎主任文化財主事、平成8年度一東和幸文化財主事）

平成7年1月17日未明に起きた兵庫県南部地震は、阪神淡路地域に甚大な被害をもたらしました。震災直後の惨状は皆さんも報道等でご存じだと思いますが、あれから3年近くが経過し、街の復興はずいぶん進んだように思います。きれいなビルが建ち並び、商店街は人があふれています。しかしながら、まだあちこちに倒壊した建物を撤去しただけの更地があり、プレハブの仮設住宅にもまだ多くの人々が住んでおられます。また、こちらの新聞には、今でも毎日必ず復興関連のニュースが報道されています。それらを見るとまだまだ震災復興は終わっていないとつくづく感じさせられます。

そういう中で私たち支援職員は、遺跡を保護しながら、家を無くした方々の住宅建設などの復興事業が少しでも早く進むようにと、日々発掘調査に励んでいます。具体的には神戸市や芦屋市などで、被災して建て直す個人住宅やマンションなどの建設予定地を発掘調査することが多いですが、本年度はライフラインの整備ということで神戸駅近くの交通量の非常に多い国道2号線の地下を延々500 mに渡って調査した例（兵庫ノ津遺跡）もありました。目の前を車が



猪名荘での現地説明会

一日中ひっきりなしに通る中での調査は2ヵ月に及び、騒音や排気ガスなどで担当者は相当苦勞されたようです。

私は尼崎市と明石市で、ともに市街地再開発事業に伴う発掘調査に従事しました。どちらも発掘面積が広く大変でしたが、尼崎では東大寺領の荘園である猪名荘の中心施設と考えられる建物跡や倉庫跡が発見されました。鹿児島では見たこともない奈良時代から平安時代の立派な柱や井戸に驚きました。明石では明石城の武家屋敷の跡を調査しましたが、目のすり減ったすり鉢に当時の人々の生活を偲ぶことができました。どちらの遺跡でも現地説明会を行いました。震災復興という非常事態でありながらも地元の方々に始め多くの見学者があり、文化財に対する関心の高さを感じました。余談ですが、私が説明する発掘音を聞いて、「あんたはかごまやっねえ。」とうれしそうに声をかけてくださる鹿児島県出身の方が何人もおられ、励みになりました。



明石武家屋敷の調査風景

このように兵庫での日々は毎日驚きの連続です。鹿児島との違いに戸惑うことも多くありますが、私のような支援職員が全国から集まっており、北は青森から南は鹿児島まで、この3年間で延べ96人の人々が復興調査に携わりました。これら多くの人々と知り合えたことも大変すばらしい経験になっています。

皆さんもぜひ復興の進む阪神淡路においでください。

（平成9年度派遣職員 大久保浩二）

～おもなできごと～

- ①平成9年度(第6期)長期研修講座  
 期間 5月6日(火)～11月5日(水)  
 受講者 一写真, 左より2人目から—  
 ・徳重 和幸(東市来町)  
 ・児之原博寿(松元町)  
 ・村原 政樹(薩摩町)  
 ・古川 斉(末吉町)  
 ・内村 憲和(大崎町)



- ②平成9年度 行政基礎講座  
 対象者  
 (A) 7月30日(水)～7月31日(木)  
 市町村教育委員会埋蔵文化財保護行政担当職員  
 (B) 7月31日(木)～8月1日(金)  
 国・県・市町村・公団の開発部局等の行政職員  
 参加者  
 ( 7月30日(水) 65名 )  
 ( 7月31日(木) 154名 )  
 ( 8月1日(金) 88名 )

- ③「発掘された日本列島'97 鹿児島展」  
 会場 県歴史資料センター黎明館第2期展示室  
 期間 7月29日(火)～8月24日(日)  
 記念講演会 8月10日(日)  
 「南の豊かな縄文文化」  
 國學院大學文学部教授 小林達雄先生

※入場者 (単位:人)

	展示	記念講演会
児童	986	22
生徒	706	8
一般	4,942	254
招待者	1,702	—
計	8,336	284

- ⑤平成9年度 埋蔵文化財技術研修講座  
 11月20日(木)～11月21日(金)  
 対象者  
 各市町村教育委員会の埋蔵文化財担当者  
 内容 ～遺構の検出について～  
 (1) 実地研修  
 ・日置郡吹上町農業センター遺跡群  
 ・日置郡金峰町持鉢松遺跡  
 (2) 講義・事例研究  
 参加者  
 1日目 23市町村 27名  
 2日目 27市町村 29名

- ⑥歴史のふるさと県民セミナー「発見・感動・よみがえる古代のかがしま」  
 『鹿児島考古巡回展』  
 1. 会場 大口ふれあいセンター  
 (伊佐地区)  
 期間 9月6日(土)～10月5日(日)  
 講演会 9月28日(日)  
 「大河川に共存した人々」  
 繁昌正幸 文化財主事  
 2. 会場 輝北町歴史民俗資料館  
 (曾於地区)  
 期間 10月10日(金)～11月9日(日)  
 講演会 10月19日(日)  
 「火山灰台地に生き続けた人々」  
 倉元良文 文化財主事  
 3. 会場 名瀬市奄美博物館  
 (大島地区)  
 期間 11月15日(土)～12月14日(日)  
 講演会 11月30日(日)  
 「黒潮の中で暮らした人々」  
 宮田栄二 文化財主事

※入場者 (単位:人)

開催地	入場者数		計	講演
	大人	小・中・学生		
大口市	580	924	1,504	34
輝北町	1,041	270	1,311	95
名瀬市	1,817	140	1,957	50

- ④歴史のふるさと県民セミナー「発見・感動・よみがえる古代のかがしま」  
 『発掘体験と古代の生活体験』  
 8月2日(土)  
 参加者 106名(子供68名 保護者38名)  
 内容  
 ・「発掘された日本列島'97 鹿児島展」見学  
 ・上野原遺跡・青空博物館見学  
 ・発掘体験学習  
 ・生活体験(連穴土坑でくん製作・集石で石蒸し料理の実験)

**埋文だより 第15号**

発行日:平成10年2月1日  
 編集・発行  
 鹿児島県立埋蔵文化財センター  
 〒899-5652  
 鹿児島県始良郡始良町平松6252  
 TEL 0995-65-8787